

科目名称	精神看護実習	学年学期	単位数	時間数
		2 学年後期		72
担当教員	田中 美恵子	授業に関わる 実務経験	☒ 有（看護師） ☐ 無	

【1】 概要

精神疾患をもつ対象とのコミュニケーションや信頼関係を築くプロセスは看護の基本である。患者―看護師関係の形成過程を学び、自己理解を深め、看護するために必要な知識・技術・態度を学ぶ。

【2】 学習目標

1. 対象がどのような健康障害をきたしているか理解する。
2. 援助の方向性にもとづいて個別的な援助が実践できる。
3. 実習を通して自己を理解する力を養う。
3. 保健医療福祉チームの一員としての役割を理解し、看護職としての基本的態度を身につけることができる。

【3】 ディプロマポリシーとの関連性

- 1. 生活者としての人間の理解
- 2. 人間の生命、尊厳および権利を尊重した多様な価値観をもつ人間の理解
- 3. 看護の基礎的知識・技術・態度の修得
- 4. 科学的根拠に基づいた看護援助の実施
- 5. 多職種との連携・協働
- 6. 地域医療の理解と生活の支援
- 7. 看護専門職としての主体的な学びの継続

【4】 授業計画

	内 容	授業形態
実習前	精神看護実習概要についてオリエンテーションを受ける。 実習に必要な事前学習を行う。	学内オリエンテーション
実習 1 週目	1. 病院・病棟オリエンテーションを受ける。 2. 受け持ち患者を決定し、受け持ち患者を中心にコミュニケーションをはかる。 3. 患者を取り巻く環境、患者の生活を理解する。 4. 受け持ち患者の情報を収集し、個別性をとらえたアセスメントをする。 5. 受け持ち患者の日常生活の援助を実施する。	実習
実習 2 週目から 最終日	1. 自己洞察を行いながら受け持ち患者との関係を築く。 2. 援助の方向性に基づき優先順位を考慮しながら援助を実施する。 3. デイクアに参加、見学する。 4. 救急急性期治療病棟を見学する。 5. 自己の学びをまとめ、課題を明確にする。	実習

【5】 評価方法

精神看護実習の到達度基準にそって、実習での取り組み、実習記録、実習前から実習後の学習状況から、学生・教員・臨地実習指導者で評価を行う。

【6】 教科書

天賀谷隆他著 新看護学 15 精神看護 医学書院 2019 年

【7】 参考書

適宜、資料を配付します。

【8】 受講生へのメッセージ

精神看護実習は自己のコミュニケーションの傾向を知ることができます。積極的に患者さんとコミュニケーションをとりましょう。